



公益財団法人  
マルホ・高木皮膚科学振興財団

# 令和 5 年度 事業報告書

自 令和 5 年 4 月 1 日  
至 令和 6 年 3 月 31 日

公益財団法人 マルホ・高木皮膚科学振興財団



## 目 次

1. 事業報告書 .....	1
(1) 公益事業の実施 .....	1
1) 皮膚科学に関する研究に対する助成事業の実施 .....	1
2) 皮膚科学に関する大学講座への寄付事業の実施 .....	3
3) 広報活動の実施 .....	4
(2) 理事、評議員 .....	4
2. 事業報告附属明細書 .....	5
(1) 理事会・評議員会・選考委員会開催状況 .....	5
1) 理事会 .....	5
2) 評議員会 .....	6
3) 第8回高木賞 選考委員会 .....	6
(2) 役員名簿 .....	6
(3) 評議員名簿 .....	7
(4) 選考委員名簿 .....	7



## 1. 事業報告書

当財団は、「創造的な研究の奨励等に関する事業を行い、皮膚科学の発展と国民の健康福祉の増進に寄与する」ことを目的に平成 28 年 2 月 3 日に設立され、皮膚科学に関する分野の研究を行う個人や団体に助成を行うことで、この分野の治療、研究の振興を図り、もって我が国の健康の促進と医療の発展に貢献したいと考える。

平成 29 年度からは、定款第 4 条（事業）第 1 項に掲げる「皮膚科学に関する研究に対する助成」事業を毎年度実施している。また、令和 6 年度から、定款第 4 条（事業）第 3 項に掲げる「皮膚科学に関する大学講座への寄付」事業を開始すべく、準備を整えている。

### (1) 公益事業の実施

#### 1) 皮膚科学に関する研究に対する助成事業の実施

##### ① 第 7 回高木賞

「皮膚科学の発展に資する研究を行う個人や団体に対して、助成金の支給」という形で支援する事業を実施し、以下に記載する令和 5 年 4 月に高木賞受賞者 6 名及び高木賞臨床研究奨励賞受賞者 5 名に対し、助成金を交付した（所属・役職は申込時）。また、令和 5 年 4 月 15 日に東京・品川 ザ・プリンスさくらタワーにて贈呈式を実施した。

##### ● 高木賞 500 万円 (2 名 五十音順)

- ・新潟大学大学院医歯学総合研究科 講師 濱 菜摘 (44 歳)  
「新規重症度予測スコア CRISTEN に基づく Stevens-Johnson 症候群及び中毒性表皮壊死症の重症度予測バイオマーカーの探索」
- ・北海道大学病院 講師 柳 輝希 (44 歳)  
「乳房外 Paget 病における薬剤耐性機構の解明と新規治療法開発」

##### ● 高木賞 250 万円 (4 名 五十音順)

- ・京都大学大学院医学研究科皮膚科 講師 江川形平 (45 歳)  
「T 細胞を抗原特異的に皮膚へ遊走させるメカニズムの解明」
- ・東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授 沖山奈緒子 (48 歳)  
「皮膚筋炎特異的自己抗体別サブグループごとの治療標的探索」
- ・東京大学医学系研究科・医学部皮膚科 准教授 柴田 彩 (44 歳)  
「高脂肪食摂取による皮膚免疫細胞の形質変容ならびに乾癬における新しい予防戦略の開発」
- ・慶應義塾大学医学部皮膚科 専任講師 中村善雄 (40 歳)  
「アンドロゲン受容体陽性乳房外パジェット病オルガノイドを用いた腫瘍増殖に関わるアンドロゲンシグナル伝達経路の生物学的解析」

##### ● 高木賞臨床研究奨励賞 50 万円 (5 名 五十音順)

- ・浜松医科大学 皮膚科学講座 影山 玲子 (37 歳)  
「免疫組織学的解析を通じた特発性後天性全身性無汗症の病型分類の試みと新規病態機序の解明」
- ・昭和大学 名誉教授 末木博彦 (67 歳)  
「外耳道皮膚炎に関する皮膚科・耳鼻咽喉科による共同疫学研究」
- ・名古屋大学大学院医学系研究科皮膚科学分野 助教 棚橋華奈 (41 歳)



「LIPH 遺伝子変異による常染色体劣性縮毛症・乏毛症の臨床像と病態の解明」

- ・さいたま市民医療センター 皮膚科 科長 宮田聡子 (55 歳)  
「糖尿病足病変はいかにして形成されるのかーフットプリントを用いた足の形態学的変化の疫学調査ー」
- ・関西医科大学 皮膚科学講座 准教授 山崎文和 (50 歳)  
「冠動脈心臓 CT (CCTA)を施行した 88 名の乾癬患者における最大 6 年間の追跡調査による死亡症例と生存症例における背景因子・サイトケインプロファイルの検討」

## ② 第 8 回高木賞

令和 5 年 8 月に医育機関名簿に基づき全国医育機関 175 か所の皮膚科教授/部長宛に高木賞募集要項を送付し、同年 10 月 1 日から 11 月 30 日までの間に高木賞として合計 16 件、高木賞臨床研究奨励賞として 8 件の応募を受けた。

応募を受けた案件は、6 名の選考委員により「研究の科学的新規性」、「研究の臨床医学へのインパクト」、「研究方法及びその計画の妥当性 (倫理性を含む)」、「皮膚科臨床に対する直結度」を勘案して 5 段階評価により審査された。これらの結果については令和 6 年 1 月 29 日の選考委員会での審議を経て、同年 3 月 8 日の理事会にて、以下に記載する第 8 回高木賞受賞者 10 名、高木賞臨床研究奨励賞受賞者 8 名を決定した (所属・役職及び年齢は申込時)。同年 4 月以降に、各大学の指定の方法に従い助成金を交付する。

なお、令和 6 年 4 月 13 日に東京・品川 ザ・プリンスさくらタワー東京にて第 8 回高木賞の贈呈式を実施する予定である。

### ● 高木賞 500 万円 (2 名 五十音順)

- ・理化学研究所 上級研究員 川崎 洋 (45 歳)  
「アトピー性皮膚炎におけるバイオマーカーを活用した精密医療実現のための診療システム開発研究」
- ・筑波大学 医学医療系皮膚科 教授 乃村俊史 (45 歳)  
「変異 SERPINB7 の細胞外分泌不全に着目した長島型掌蹠角化症の病態解明」

### ● 高木賞 250 万円 (8 名 五十音順)

- ・大阪大学 皮膚免疫疾患治療学共同研究講座 特任講師 石塚洋典 (45 歳)  
「皮膚免疫の「Niche factor」としてのロリクリン」
- ・千葉大学大学院 医学研究院皮膚科学 教授 猪爪隆史 (50 歳)  
「白斑組織内と腫瘍組織内におけるメラノサイト抗原特異的 T 細胞の制御機構の相違の解明」
- ・産業医科大学 皮膚科学教室 教授 澤田雄宇 (44 歳)  
「細菌由来の短鎖脂肪酸を介したレジデントメモリー T 細胞を焦点としたエピジェネティクスによる炎症制御機構の解明」
- ・東邦大学医療センター 大森病院皮膚科 准教授 種瀬啓士 (48 歳)  
「悪性黒色腫細胞及びその腫瘍微小周囲環境の相互作用が腫瘍の浸潤・転移能獲得に及ぼす影響の解析と原発性悪性黒色腫の転移予測因子の探索」
- ・九州大学大学院 医学研究院皮膚科学分野 教授 中原剛士 (49 歳)  
「アトピー性皮膚炎における細胞外 ATP を介した細胞間相互作用の解析と治療応用」



- ・熊本大学大学院 生命科学研究部皮膚病態治療再建学講座 教授 福島 聡 (49 歳)  
「腫瘍微小環境の制御を目指した iPS 細胞由来マクロファージ療法」
- ・慶應義塾大学 医学部皮膚科学教室 准教授 船越 建 (47 歳)  
「乳房外 Paget 病 in situ 病変の病態機構の解明と新規治療法開発」
- ・北海道大学病院 皮膚科 助教 渡邊美佳 (40 歳)  
「皮膚疾患の統合的理解における上皮幹細胞記憶の役割」
- 高木賞臨床研究奨励賞 50 万円 (8 名 五十音順)
  - ・長崎大学病院 助教 岩永 聰 (42 歳)  
「弾性線維性仮性黄色腫の病態メカニズム解明に向けた mRNA シークエンス解析研究」
  - ・山梨大学大学院 総合研究部医学域皮膚科学講座 臨床助教 木下真直 (35 歳)  
「SJS/TEN 早期迅速診断キット開発とオールジャパン体制の構築」
  - ・京都大学大学院 医学研究科皮膚科学講座 特定講師 小亀敏明 (44 歳)  
「円形脱毛症における MZBI 陽性細胞が病勢マーカーとして機能し得るかの検討」
  - ・信州大学 医学部皮膚科 助教 中村謙太 (40 歳)  
「加齢に伴うがん関連線維芽細胞の CXCL12 と CCL5 を介した腫瘍免疫抑制の解明」
  - ・国際医療福祉大学成田病院 皮膚科 助教 乗松雄大 (34 歳)  
「皮膚疾患におけるキャピラロスコーピー所見の検討」
  - ・泉中央皮膚科クリニック 院長 原 正啓 (65 歳)  
「皮膚科診療所における尋常性疣贅治療の疫学調査」
  - ・北海道大学病院 皮膚科 助教 前田拓哉 (34 歳)  
「ポリコナゾール誘発有棘細胞癌検体を用いた早期有棘細胞癌の層別化」
  - ・名古屋大学附属病院 皮膚科学分野 助教 桃原真理子 (37 歳)  
「Immunoprecipitation-liquid chromatography-tandem mass spectrometry を用いた自己抗原の網羅的解析」

### ③ 第 5 回高木賞 受賞者からの報告

第 5 回高木賞の助成期間が令和 5 年 3 月末日に満了したため、第 5 回高木賞受賞者から収支報告書、研究結果報告書入手した。研究結果報告書の小冊子を作製する予定である。

### 2) 皮膚科学に関する大学講座への寄付事業の実施

令和 5 年 7 月 14 日に内閣府に対して当該事業の実施について変更認定申請を行い、令和 6 年 2 月 2 日付けで同認定を受けた。

この認定までに、財団内部での寄付申請受付から交付に至るまでの各業務の点検、運用準備を行い、ISID 社のシステムを利用したホームページの準備、奨学寄付金算定のために必要となる情報の収集・加工のためのシステム作成、調整などの準備を行った。また、認定取得後には 4 月 1 日からの実運用に向けて、大学皮膚科学関連講座への周知連絡、運用試験などの準備を行った。

これらの準備に必要な経費については、奨学寄付事業用の費用として予算上公益目的会計に分類して計上していたが、令和 5 年度中の奨学寄付事業の実施がなかったため公益目的会計ではなく、発生した費用は準備費用として法人会計で集計した。準備費用の大部分は、ホームページの準備とシステム設計になるため通信費として計上した。

また、来年度以後に奨学寄付事業で必要となる経費は、財団理事会承認のもとに 9 月上旬に



マルホ株式会社に通知し、マルホ株式会社からこの金額を（年1億円程度）を毎年10月初めに使途限定寄付として受けることで合意している。このため、9月初め頃の財団理事会で承認された寄付金額は10月上旬に自動的に財団に納付される。

### 3) 広報活動の実施

第4回高木賞の研究成果をまとめ、研究結果報告書集として冊子化した。これらを高木賞募集要項とともに医育機関名簿に基づき全国医育機関175か所の皮膚科教授/部長宛に送付した。この第4回高木賞にかかる研究結果報告書は、その1部ずつを国立国会図書館、日本科学技術振興機構及び医学中央雑誌刊行会に納本した。

また、日本皮膚科学会誌133巻第10号、11号及び日本臨床皮膚科医会雑誌に第8回高木賞の募集要項を掲載の上、日本皮膚科学会、日本臨床皮膚科医会のホームページに周知案内を掲載いただいた。さらに、皮膚科関連学会でのポスター掲示・募集要項配布を通じ、マルホ・高木皮膚科学振興財団と高木賞について広報活動を実施した。

令和6年3月12日には、同年3月8日に開催された理事会で決定した第8回高木賞受賞者を財団ホームページに掲載した。

国内の臨床現場の皮膚科医に対する当財団、高木賞の認知度は未だ低いと思われる。そのため、臨床現場への財団の認知度を上げるために、令和3年度より日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会のポスター賞に対し協賛（財団から副賞として盾と賞金を贈呈）して財団を広告している。令和5年度も第39回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会の事務局と打合せを行い、ポスター賞に共催し、本件の臨床学術大会のホームページへの掲載、会期中の授賞式、受賞者への盾・賞金の贈呈を行い、広報活動の一助とした。

第8回高木賞へは、日臨皮ポスター賞受賞者のうち1名から高木賞臨床研究奨励賞への応募があり、ポスター賞協賛の効果が認められたものと考えられる。

引き続き令和6年4月20、21日開催の第40回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会にて決定されるポスター賞への共催を継続する。

## (2) 理事、評議員

令和6年3月31日現在の理事・評議員数

- ・理事 11名
- ・評議員 7名



## 2. 事業報告附属明細書

### (1) 理事会・評議員会・選考委員会開催状況

#### 1) 理事会

##### ① 令和5年度 第1回定例理事会 令和5年5月19日 WEB併用により実施

議題	内容
<決議事項>	
1) 令和4年度事業報告・財務諸表	令和4年度の事業報告・財務諸表が承認された
2) 第8回高木賞 募集要項について	第8回高木賞の募集要項につき承認された
3) 奨学寄付金交付規程、奨学寄付金交付内規について	奨学寄付金交付規程、奨学寄付金交付内規について承認された
4) 令和5年度 定時評議員会招集	定時評議員会招集につき承認された
<報告事項>	
1) 職務執行状況の報告	理事長、常務理事の職務執行状況につき報告された

##### ② 令和5年度 臨時理事会 令和5年6月9日 決議の省略による方法により実施

議題	内容
<審議事項>	
1) 理事長、常務理事の選定の件	理事長、常務理事の選定について承認された

##### ③ 令和5年度 臨時理事会 令和5年6月15日 決議の省略による方法により実施

議題	内容
<決議事項>	
1) 保有株式(株式会社リニカル)の議決権行使	株式会社リニカル株式の議決権行使について賛成とすることが承認された

##### ④ 令和5年度 臨時理事会 令和5年12月18日 決議の省略の方法により実施

議題	内容
<決議事項>	
1) 保有株式(マルホ株式会社)の議決権行使	マルホ株式会社株式の議決権行使について賛成とすることが承認された

##### ⑤ 令和5年度 第2回定例理事会 令和6年3月8日 WEB併用により実施

議題	内容
<決議事項>	
1) 第8回高木賞受賞者の決定	第8回高木賞の受賞者について承認された
2) 第9回高木賞選考委員長、選考委員の選任	第9回高木賞の選考委員、選考委員長選任について承認された
3) 奨学寄付金交付規程および奨学寄付金交付内規の設定について	奨学寄付金交付規程及び奨学寄付金交付内規の設定について承認された
4) 定款の改定について	定款の改定について評議員会への上程が承認された
5) 令和6年度事業計画書、収支予算書等について	令和6年度の事業計画、収支予算書等について承認された



< 報告事項 >	
1) 奨学寄付金事業の準備状況	奨学寄付金事業の準備状況について報告された
2) 職務執行状況の報告	理事長、常務理事の職務執行状況が報告された。

2) 評議員会 令和5年度定時評議員会 令和5年6月9日 WEB併用により実施

議題	内容
< 決議事項 >	
1) 令和4年度事業報告・財務諸表	令和4年度の事業報告・財務諸表につき承認された
2) 理事の選任について	理事の選任について承認された
3) 評議員の選任について	評議員の選任について承認された
4) 監事の選任について	監事の選任について承認された
< 報告事項 >	
1) 第8回高木賞 募集要項について	第8回高木賞募集要項について報告された
2) 第7回高木賞贈呈式の実施について	第7回贈呈式の実施について報告された

3) 第8回高木賞 選考委員会 令和6年1月29日 WEB会議システムを用いて実施

16件の高木賞応募案件、8件の高木賞臨床研究奨励賞応募案件について、各選考委員の評価（令和5年12月～令和6年1月実施）の集計表に基づき選考を行い、選考委員会にて10件の高木賞候補者、8件の高木賞臨床研究奨励賞候補者を選択した。

(2) 役員名簿

【理事：11名・監事2名】

【任期（理事）：令和5年6月9日から令和7事業年度に係る定時評議員会の終結の時まで】

【任期（監事）：令和5年6月9日から令和9事業年度に係る定時評議員会の終結の時まで】

役職名	氏名	備考
理事長	高木 幸一	創業家、マルホ株式会社 相談役
常務理事	愛宕 栄彦	マルホ株式会社
理事	川島 眞	東京女子医科大学名誉教授
理事	川島 義治	公益財団法人宮川庚子記念研究財団 理事
理事	黒澤 和平	元 藍野大学 医療保健学部長／公益財団法人興和育英会 評議員
理事	今野 清隆	元 日本新薬株式会社 執行役員
理事	昌子久仁子	神奈川県立保健福祉大学 教授
理事	富田 圭子	近畿大学農学部 准教授
理事	原 拓志	関西大学商学部 教授、神戸大学名誉教授
理事	前田 誠二	元 マルホ株式会社 取締役
理事	村松 音和	創業家
監事	鈴木 祥克	太陽グラントソントン税理士法人 パートナー
監事	濱岡 峰也	清和法律事務所 弁護士



(3) 評議員名簿

【評議員：7名】

【任期：令和5年6月9日から令和9事業年度に係る定時評議員会の終結の時まで】

【\*任期：令和3年6月11日から令和7年事業年度に係る定時評議員会の終結の時まで】

役職名	氏名	備考
評議員	今井 良平	京都パートナーズ株式会社 代表取締役社長
評議員	上島 悦子	大阪大学名誉教授
評議員	富田 裕	マルホ株式会社 取締役
評議員	平野 光俊	大手前大学学長、神戸大学名誉教授
評議員	藤村 昭夫	自治医科大学名誉教授
評議員	宮井 宏	元 パナソニック株式会社
評議員	安井 清*	元 マルホ株式会社 執行役員

(4) 選考委員名簿

【選考委員：6名】

【任期：令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）】

選考委員名 非開示